

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9236	大正12年	秋の部	秋立つか雲の音聞け山の上	立秋	時候
9240	大正12年	秋の部	夜嵐や魂棚更けて灯孤ツ	魂祭	人事
9241	大正12年	秋の部	虫食ひの鬼灯悲し魂祭	魂祭	人事
9242	大正12年	秋の部	みそはぎをこぼして魂の去りけらし	魂祭	人事
9243	大正12年	秋の部	魂棚や夜の間にからぶ蓮の飯	魂祭	人事
9244	大正12年	秋の部	草花の數をつくして魂まつり	魂祭	人事
9245	大正12年	秋の部	つゆけしや人を送りて無言なる	露	天文
9246	大正12年	秋の部	一行の元氣朝つゆ乱れ散る	露	天文
9247	大正12年	秋の部	白露の中や朝鷄追ひ放す	露	天文
9248	大正12年	秋の部	白露や昨日終へたる庵曝書	露	天文
9250	大正12年	秋の部	新涼に苔を掃へり頌徳碑	新涼	時候
9251	大正12年	秋の部	新涼にものゝ二葉の生れけり	新涼	時候
9253	大正12年	秋の部	美人前にあり稻妻頻り也	稻妻	天文
9254	大正12年	秋の部	登山より歸る水村秋めきて	秋めく	時候
9255	大正12年	秋の部	貴人の登山遠雷畏けれ	登山	人事
9256	大正12年	秋の部	登山案内己が稗田に徑して	登山	人事
9257	大正12年	秋の部	素顔吹く霧や登山の女馬士	登山	人事
9258	大正12年	秋の部	登山宿の軒の草偃す嵐哉	登山	人事
9259	大正12年	秋の部	扇白く登山の客の逗留す	登山	人事
9260	大正12年	秋の部	登山元氣朝つゆ降らず澗葉樹	登山	人事
9261	大正12年	秋の部	登山戻れば灯笼ほのか草の宿	登山	人事
9262	大正12年	秋の部	七星斜なり登山のかしま立	登山	人事
9263	大正12年	秋の部	合歡花登山の便りに到りけり	合歡の花	植物
9265	大正12年	秋の部	秋風にふれてこぼれぬ露もなし	秋の風	天文
9266	大正12年	秋の部	秋風の吹くがまゝ也草も木も	秋の風	天文
9267	大正12年	秋の部	筆を輟めて栗ひく鼠聞きすます	栗	植物
9269	大正12年	秋の部	桐落葉踏んで大地を鳴らし去る	桐一葉	植物
9271	大正12年	秋の部	この程の忌日子規庵無事なりき	子規忌	人事
9273	大正12年	秋の部	柿くひし佛を偲ぶ物の本	柿	植物
9274	大正12年	秋の部	枝柿到來婆婆と疊の上に置く	柿	植物
9275	大正12年	秋の部	山盛りの柿くひつくす天高し	柿	植物
9276	大正12年	秋の部	柿くうて家を辞すれば風の吹く	柿	植物
9277	大正12年	秋の部	消息に酬いて柿の句を贈る	柿	植物
9278	大正12年	秋の部	秋晴の光の中の羽虫哉	秋晴	天文
9279	大正12年	秋の部	秋晴に羽たゝいて洲の鳥のみる	秋晴	天文
9280	大正12年	秋の部	秋晴や松の鱗の片照りも	秋晴	天文
9281	大正12年	秋の部	秋晴に芒ともしく光りけり	秋晴	天文
9282	大正12年	秋の部	秋晴の夕となりし翠微哉	秋晴	天文
9284	大正12年	秋の部	網し得て夜寒に鯉の大ききよ	夜寒	時候
9285	大正12年	秋の部	旅路の事語りつゞけて夜寒哉	夜寒	時候
9286	大正12年	秋の部	萬巻の書に埋もれけり夜寒の灯	夜寒	時候
9287	大正12年	秋の部	夜寒の座を占め得たり庵の大硯	夜寒	時候
9288	大正12年	秋の部	二三人夜寒の灯かげ句を作る	夜寒	時候
9413	大正13年	秋の部	新涼や水を愛して水草も	新涼	時候
9414	大正13年	秋の部	新涼や色濃かに深山艸	新涼	時候
9415	大正13年	秋の部	新涼やしばらく潜む魚の子ら	新涼	時候
9416	大正13年	秋の部	千生の未生の秋も涼しげに	新涼	時候
9417	大正13年	秋の部	新涼の流れて星の疎なる	新涼	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9419	大正13年	秋の部	白扇や瀑布見にまかる木下道	扇	人事
9421	大正13年	秋の部	巖踏んで宿にかへり來百合花	百合	植物
9422	大正13年	秋の部	似タリ貝露と尾花のいさかひも	雑	雑
9423	大正13年	秋の部	鮑採の嘯岩に振ふかな	鮑	動物
9424	大正13年	秋の部	岩館の岩より起る秋の風	秋の風	天文
9425	大正13年	秋の部	旅今宵潮虫も鳴け宿の庭	蟲	動物
9426	大正13年	秋の部	四五人の踊に磯の香のたちぬ	踊	人事
9430	大正13年	秋の部	今朝の秋又青山と一拶す	今朝の秋	時候
9432	大正13年	秋の部	秋の草の千くさの中の穂長艸	秋の草	植物
9434	大正13年	秋の部	星まつる一むら萩をよるべ哉	七夕	人事
9435	大正13年	秋の部	秋風の山おろし來つ古簾	秋の風	天文
9437	大正13年	秋の部	磯の宿に名残の幘や濤の音	秋の蚊帳	人事
9438	大正13年	秋の部	月の瀾われて碎けて千々の秋	秋	時候
9439	大正13年	秋の部	秋風に吹かれて輕し漁り舟	秋の風	天文
9440	大正13年	秋の部	秋晴の海に入りけり山の裾	秋晴	天文
9442	大正13年	秋の部	道の友南北よりす秋の風	秋の風	天文
9443	大正13年	秋の部	秋風の中に一人や松に倚る	秋の風	天文
9444	大正13年	秋の部	高館に遊びて久し置扇	秋扇	人事
9445	大正13年	秋の部	置扇子が草花をむしり來る	秋扇	人事
9446	大正13年	秋の部	嵐吹いて尚棚に在る南瓜哉	南瓜	植物
9447	大正13年	秋の部	秋風や水急にして帆掛舟	秋の風	天文
9448	大正13年	秋の部	閑話柄主人が座右の南瓜哉	南瓜	植物
9449	大正13年	秋の部	事もなげに隣家南瓜を贈來る	南瓜	植物
9450	大正13年	秋の部	贈られし南瓜に何を酬いんか	南瓜	植物
9451	大正13年	秋の部	扇置くや壞古の作の未定稿	秋扇	人事
9453	大正13年	秋の部	供物くさだ\主人が足しぬ秋海棠	秋海棠	植物
9454	大正13年	秋の部	畑に出て月待ち得たる薄衣哉	月	天文
9455	大正13年	秋の部	月今し客の面を照しけり	月	天文
9456	大正13年	秋の部	書卷積みし方の小暗き月夜哉	月	天文
9457	大正13年	秋の部	穂芒の灯影無月の記を艸す	無月	天文
9458	大正13年	秋の部	頑に句を罵りぬ鶏頭花	鶏頭	植物
9460	大正13年	秋の部	人遠き思ひ夜寒に朝寒に	雑	雑
9462	大正13年	秋の部	皆人の顔色動く秋の風	秋の風	天文
9464	大正13年	秋の部	耳にとき樹間の聲や秋の風	秋の風	天文
9467	大正13年	秋の部	四五人を北へ送りぬ草紅葉	草錦	植物
9468	大正13年	秋の部	幾日ちる柳ぞ曇つゞく日ぞ	柳散る	植物
9591	大正14年	秋の部	白き花折持ちて蝸の谿	蝸	動物
9593	大正14年	秋の部	北を指せば東に聳ゆ雲の峰	雲の峰	天文
9594	大正14年	秋の部	霧蒼し北門こゝに開けたり	霧	天文
9596	大正14年	秋の部	石露はれて河骨の細々と	河骨	植物
9597	大正14年	秋の部	青葡萄熊に非ずバ何通ふ	青葡萄	植物
9598	大正14年	秋の部	露けしや昔の蝦夷の足跡も	露	天文
9599	大正14年	秋の部	羊蹄山端山裾山霧の降る	霧	天文
9600	大正14年	秋の部	夏霧に喬木の葡萄滴りぬ	夏霧	天文
9601	大正14年	秋の部	明日立たん旅の宿天の川淡し	天の川	天文
9602	大正14年	秋の部	北を限る國の旅寝や天の川	天の川	天文
9603	大正14年	秋の部	蝦夷人の笹の軒端や天の川	天の川	天文
9605	大正14年	秋の部	定山の魂も祭らず鴉啼く	魂祭	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9607	大正14年	秋の部	言葉を残し去る唐葵の花の中	立葵	植物
9608	大正14年	秋の部	秋立つと目に白樺の白さ哉	立秋	時候
9609	大正14年	秋の部	今朝秋や耳にあやしき駅路の名	今朝の秋	時候
9610	大正14年	秋の部	峰の木々秋立つ容つくり哉	立秋	時候
9613	大正14年	秋の部	奥蝦夷や樹海の果の女郎花	女郎花	植物
9617	大正14年	秋の部	花豆や砂に相撲へる蝦夷の子ら	角力	人事
9618	大正14年	秋の部	山にハ山の草花折りぬほつ / \と	草花	植物
9619	大正14年	秋の部	足に灌げ山の眞清水薬なる	清水	地理
9620	大正14年	秋の部	海山や知らぬ國なる女郎花	女郎花	植物
9621	大正14年	秋の部	蝦夷近し海風に偃す女郎花	女郎花	植物
9623	大正14年	秋の部	虫聲々筆の穂艸の細かに	蟲	動物
9625	大正14年	秋の部	膝を撃ちて蚊火の烟の中にあり	蚊遣	人事
9626	大正14年	秋の部	東北へ斜に南瓜棚作る	南瓜	植物
9627	大正14年	秋の部	庭草をくゞる嵐や茗荷の子	茗荷の子	植物
9628	大正14年	秋の部	秋風や壁にはためく書一軸	秋の風	天文
9630	大正14年	秋の部	はぎすゝきそも山男山女	雑	雑
9632	大正14年	秋の部	夜嵐や無月の欄の花すゝき	無月	天文
9633	大正14年	秋の部	果落す栗鼠を憎みて吟哦哉	木の實	植物
9635	大正14年	秋の部	天さかる鄙少女野菊たてまつれ	野菊	植物
9636	大正14年	秋の部	杉の里の夜寒畏し御火焚ら	夜寒	時候
9638	大正14年	秋の部	果敢なさは無月の詩筆措きもあへず	無月	天文
9640	大正14年	秋の部	雨を避くる物かげもなし草錦	草錦	植物
9641	大正14年	秋の部	松の里芙蓉の家や雨宿り	芙蓉	植物
9643	大正14年	秋の部	日中暖に眞垣の菊に倚り	菊	植物
9645	大正14年	秋の部	菊長短南山常の如くにて	菊	植物
9799	大正15年	秋の部	など斯くは蛸早き今年ぞも	蛸	動物
9801	大正15年	秋の部	燈火親し草の葉ずれを耳の底	燈火親し	人事
9802	大正15年	秋の部	燈火親し大空の覆ふ夜にして	燈火親し	人事
9803	大正15年	秋の部	庭の虫燈火親しと鳴出けむ	燈火親し	人事
9804	大正15年	秋の部	燈に親み山奥の湯に居残りぬ	燈火親し	人事
9805	大正15年	秋の部	秋の燈や端居になれて草の色	秋の灯	人事
9807	大正15年	秋の部	濱草の秋咲く花に暑さ哉	草花	植物
9808	大正15年	秋の部	合歡咲いて象潟近し旅心	合歡の花	植物
9809	大正15年	秋の部	三郡の水平かに稲の花	稲の花	植物
9810	大正15年	秋の部	秋の雲海の碧に影落す	秋の雲	天文
9811	大正15年	秋の部	白砂ふむ墓辺の道や合歡花	合歡の花	植物
9812	大正15年	秋の部	君が星臣が星宵々の秋	秋の宵	時候
9813	大正15年	秋の部	浦波に足ぬらし來つ胡麻の花	胡麻の花	植物
9814	大正15年	秋の部	白銀の翅も秋や浪千鳥	秋	時候
9815	大正15年	秋の部	三昧より起ちてか蚤を振ひけむ	蚤	動物
9816	大正15年	秋の部	樹の奥の鳩啼止めバ露の音	露	天文
9817	大正15年	秋の部	妙音朗々大竹原をもるも秋	秋	時候
9818	大正15年	秋の部	海明けぬいづこきのふの天の川	天の川	天文
9819	大正15年	秋の部	岩清水帰路一掬の名残哉	清水	地理
9821	大正15年	秋の部	魂棚にみそなはすらむ旅衣	魂祭	人事
9822	大正15年	秋の部	魂棚の灯に参り會ふ旅路哉	魂祭	人事
9823	大正15年	秋の部	魂まつる越路の穂草見てすぎぬ	魂祭	人事
9824	大正15年	秋の部	魂祭宵月に立つ人の影	魂祭	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9825	大正15年	秋の部	魂棚の灯をつぎ足しぬ獨居て	魂祭	人事
9826	大正15年	秋の部	樹石皆神あるにつく / \法師	つくつく法師	動物
9827	大正15年	秋の部	幾秋の泉を旅の鏡哉	秋	時候
9828	大正15年	秋の部	遺墨かず / \ 西瓜の記事ハなかりけり	西瓜	植物
9829	大正15年	秋の部	朝兒のつゆに別を急ぎけり	朝顔	植物
9831	大正15年	秋の部	西東と釣りぬ大きな蝸ニツ	蚊帳	人事
9832	大正15年	秋の部	あはたゞしくかたみにくゞる蝸の裾	蚊帳	人事
9833	大正15年	秋の部	杯を置けバ鳩啼く別哉	鳩	動物
9835	大正15年	秋の部	鄙めきて百日紅咲く畏けれ	百日紅	植物
9836	大正15年	秋の部	蝸に何まどふべき物もなし	蝸	動物
9837	大正15年	秋の部	うき我にくれし林檎の小粒なる	林檎	植物
9838	大正15年	秋の部	黄金掘る山瘠せにけり花芒	芒	植物
9839	大正15年	秋の部	昔人ひたすがりけむ葛の花	葛の花	植物
9840	大正15年	秋の部	岩清水誰が俳腸をしぼりけむ	清水	地理
9842	大正15年	秋の部	岩根冷し鱒雲を呼ばふらん	鱒	動物
9843	大正15年	秋の部	盆休磯ハ磯草の花盛	盆休	人事
9845	大正15年	秋の部	青山やかさねて嗽ぐ水の秋	秋の水	地理
9846	大正15年	秋の部	みるかつぐ蟹少女夜踊るなり	踊	人事
9847	大正15年	秋の部	禅院の流れ水蝸の鳴く	蝸	動物
9848	大正15年	秋の部	木々開山が手栽らし蜻蛉とぶ	蜻蛉	動物
9849	大正15年	秋の部	滝道の喬木とんぼ飛び断えし	蜻蛉	動物
9850	大正15年	秋の部	磯馴松蜻蛉ハ町へ吹かれけり	蜻蛉	動物
9851	大正15年	秋の部	昼もうつ踊の太鼓とんぼ飛ぶ	蜻蛉	動物
9852	大正15年	秋の部	山際に蜻蛉とぶ見ゆ海平ラ	蜻蛉	動物
9854	大正15年	秋の部	これを喰ふ両三顆天爽かに	爽か	時候
9856	大正15年	秋の部	呱呱の聲あり千里さはやかに	爽か	時候
9858	大正15年	秋の部	女郎花よりか萩より芒へか	雑	雑
9860	大正15年	秋の部	萩の花咲の盛りや小酒盛	萩	植物
9862	大正15年	秋の部	稻妻や聳ゆるまゝに一の山	稻妻	天文
9864	大正15年	秋の部	秋風にくちゆくものゝ哀しさよ	秋の風	天文
9865	大正15年	秋の部	馬肥ゆる楽しさ萩の二番刈	馬肥ゆる	動物
9866	大正15年	秋の部	馬肥えて牧の秋風日たゞ吹く	馬肥ゆる	動物
9867	大正15年	秋の部	一峽の葛喰ひつくし馬肥ゆる	馬肥ゆる	動物
9868	大正15年	秋の部	ほと / \ と葉つゆ穂つゆや馬肥えし	馬肥ゆる	動物
9869	大正15年	秋の部	秋風や牽く駒肥えし不破の関	馬肥ゆる	動物
9871	大正15年	秋の部	黍は稗に立ついづこ魂遊ぶ	唐黍	植物
9873	大正15年	秋の部	萩に行かむ芒に來よと忙しさ	雑	雑
9875	大正15年	秋の部	つゆしぐれ鶉の床をみだしけむ	露しぐれ	天文
9876	大正15年	秋の部	翁さびて唐辛子干す日ありけり	唐辛子	植物
9877	大正15年	秋の部	礪礪の土悲しさよ唐辛子	唐辛子	植物
9878	大正15年	秋の部	鎌倉や畑一ところ唐辛子	唐辛子	植物
9879	大正15年	秋の部	棒喝の唐辛子煮る違哉	唐辛子	植物
9880	大正15年	秋の部	山畑や引残されし唐辛子	唐辛子	植物
9882	大正15年	秋の部	草花の種採りに出つ風の中	草花の種	植物
9883	大正15年	秋の部	草花の種こぼれたり草の老	草花の種	植物
9884	大正15年	秋の部	草花の種ぞ穂末に残りける	草花の種	植物
9885	大正15年	秋の部	草花の種小粒なり日の秋に	草花の種	植物
9886	大正15年	秋の部	草花の種の光や秋の風	草花の種	植物



No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9887	大正15年	秋の部	草花の種が飛ぶなり風の中	草花の種	植物
9889	大正15年	秋の部	秋の海深く行きけむ鱈廣に	秋の海	地理
9890	大正15年	秋の部	ホキと折れて手柴引かれぬ秋の風	手柴引	人事
9891	大正15年	秋の部	手柴引けバ蔓も断たれて秋の風	手柴引	人事
9892	大正15年	秋の部	手柴引けバ瓜の末生絡まりぬ	手柴引	人事
9893	大正15年	秋の部	手柴引く蔓の下草つゆけさよ	手柴引	人事
9894	大正15年	秋の部	手柴引く因みに仆す黍の稈	手柴引	人事
9896	大正15年	秋の部	むかし男今もこそ居れ鳩吹いて	鳩吹く	人事
9898	大正15年	秋の部	菊の花耀くばかり酒微醺	菊	植物
9900	大正15年	秋の部	酒壺のあたり紅葉の二三片	紅葉	植物
9901	大正15年	秋の部	したみつくす瓢の酒や紅葉寒	紅葉	植物
9902	大正15年	秋の部	荒がねの毒と流るゝ紅葉哉	紅葉	植物
9903	大正15年	秋の部	紅葉折りて心晩帰を急ぎけり	紅葉	植物
10109	昭和2年	秋の部	はらからの迎火に袖翻へす	迎火	人事
10110	昭和2年	秋の部	送火のかたばかり絆がら白々と	送火	人事
10111	昭和2年	秋の部	迎火や灯籠已にとりある	迎火	人事
10112	昭和2年	秋の部	送火や門辺の塵の露じめり	送火	人事
10113	昭和2年	秋の部	送火や潮の八百路の磯の宿	送火	人事
10114	昭和2年	秋の部	迎火や尚ひぐらしの一しきり	迎火	人事
10115	昭和2年	秋の部	樹藪蒼送火の烟消えにつゝ	送火	人事
10117	昭和2年	秋の部	客あり跋涉し來る今朝の秋	今朝の秋	時候
10118	昭和2年	秋の部	夜の蟬しば / \ 鳴くも寂しからむ	蟬	動物
10119	昭和2年	秋の部	君ありとなどか知るべき虫の聲	蟲	動物
10120	昭和2年	秋の部	只是の如し夕餐と蝸と	蝸	動物
10121	昭和2年	秋の部	夕を咲く花に行く / \ 里清水	清水	地理
10122	昭和2年	秋の部	遠き母に文かく野分吹やまず	野分	天文
10123	昭和2年	秋の部	朝兒の咲きあへず野分吹つる	野分	天文
10124	昭和2年	秋の部	野分吹て瀧道とざす草の丈	野分	天文
10125	昭和2年	秋の部	尚鳴くよ野分の底の虫一ツ	蟲	動物
10126	昭和2年	秋の部	関守に片われ月や野分ふく	野分	天文
10127	昭和2年	秋の部	雲折々山の瘤掃く野分哉	野分	天文
10128	昭和2年	秋の部	山畑や野分にたへて小百姓	野分	天文
10129	昭和2年	秋の部	母に文す野分の灯明らけく	野分	天文
10130	昭和2年	秋の部	名月の雲の黒さよ明るさよ	名月	天文
10131	昭和2年	秋の部	月今宵雲の深さを欄に倚る	月	天文
10132	昭和2年	秋の部	獨居を荒野の思月の雲	月	天文
10134	昭和2年	秋の部	紙魚はたきつくさず已に癩祭忌	子規忌	人事
10135	昭和2年	秋の部	秋といふたましひ木の実草の花	雑	雑
10136	昭和2年	秋の部	日に三たび絲瓜の老を省る	糸瓜	植物
10137	昭和2年	秋の部	山寺ハ蓮の青さに書を曝す	蟲干	人事
10138	昭和2年	秋の部	鯊釣の子等を停めて事問ひぬ	鯊釣	人事
10139	昭和2年	秋の部	鯊釣の子等にまじりて徑ゆく	鯊釣	人事
10141	昭和2年	秋の部	大木とならん相やつゆしぐれ	露しぐれ	天文
10143	昭和2年	秋の部	廬浅く秋風吹かぬ隈もなし	秋の風	天文
10144	昭和2年	秋の部	草の花木の實秋てふ魂か	雑	雑
10146	昭和2年	秋の部	一峰を前に後へに木子狩	茸狩	人事
10147	昭和2年	秋の部	籃の中木子乏しみ蜻蛉とぶ	茸	植物
10148	昭和2年	秋の部	遠く來つる海辺の人よ木子狩	茸狩	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10149	昭和2年	秋の部	雑茸の群がり起る端山哉	茸	植物
10150	昭和2年	秋の部	茸狩やさ霧に起きて朝餉	茸狩	人事
10151	昭和2年	秋の部	茸もなき芒の岡に上りけり	茸	植物
10152	昭和2年	秋の部	白魚を膾に花野遊哉	花野	地理
10153	昭和2年	秋の部	大海の魚を膾や花野酒	花野	地理
10154	昭和2年	秋の部	家につとに秋野の花や晴三里	花野	地理
10155	昭和2年	秋の部	水澄めるあたり菌老にけり	茸	植物
10156	昭和2年	秋の部	茸狩に疲れし夢や松青き	茸狩	人事
10157	昭和2年	秋の部	茸狩の頭挙ぐれば雲赤し	茸狩	人事
10158	昭和2年	秋の部	山果幾たび落つる夜長哉	夜長	時候
10159	昭和2年	秋の部	山寺や夜長に起きて栗鼠を追ふ	夜長	時候
10160	昭和2年	秋の部	長き夜のつもりて鬢の白さ哉	夜長	時候
10161	昭和2年	秋の部	古柳長々し夜を垂にけり	夜長	時候
10162	昭和2年	秋の部	反故ちるに夜長の膝を容にけり	夜長	時候
10473	昭和3年	秋の部	蓮咲くや松ハ懶き朝まだき	蓮	植物
10475	昭和3年	秋の部	背水の勢に在る案山子哉	案山子	人事
10477	昭和3年	秋の部	誰が晝より拔出でし萩食み足らず	萩	植物
10479	昭和3年	秋の部	鮎川の石に馬蹄を轟かす	鮎	動物
10480	昭和3年	秋の部	鮎狩のかたらひすなり石の上	鮎釣	人事
10481	昭和3年	秋の部	鮎の知る水のまさりや峽一雨	鮎	動物
10482	昭和3年	秋の部	鮎を釣る故人の面や上つ瀬に	鮎釣	人事
10483	昭和3年	秋の部	君を訪へば年魚の瀬音の高まさる	鮎	動物
10484	昭和3年	秋の部	串削る年魚の七瀬の主ぶり	鮎	動物
10485	昭和3年	秋の部	魚肥えぬ萩の下つゆ繁きより	萩	植物
10486	昭和3年	秋の部	きり岸の芒の影や魚走る	芒	植物
10488	昭和3年	秋の部	吾馬の墓辺秋草食まんとす	秋の草	植物
10490	昭和3年	秋の部	墨の痕と泉の聲と今朝の秋	今朝の秋	時候
10492	昭和3年	秋の部	月日知らぬ岩に青蔦からみけり	青蔦	植物
10493	昭和3年	秋の部	天の川注がむ岩門開けたり	天の川	天文
10495	昭和3年	秋の部	芒原に道片寄りし花野哉	花野	地理
10496	昭和3年	秋の部	思ひあがり雀も飛べる花野哉	花野	地理
10497	昭和3年	秋の部	尚白し花野に曬す馬の骨	花野	地理
10498	昭和3年	秋の部	花野行く耳にきのふの峽の聲	花野	地理
10499	昭和3年	秋の部	ぬか星の幾つこぼれし花野哉	花野	地理
10501	昭和3年	秋の部	胸打さはぎ葛吹く風止まず	葛	植物
10503	昭和3年	秋の部	聞説伽藍の内外秋の風	秋の風	天文
10505	昭和3年	秋の部	虫の音を文にもつゞれ旅せめて	蟲	動物
10506	昭和3年	秋の部	むし各常の夜の如鳴にけり	蟲	動物
10507	昭和3年	秋の部	鳴く虫を愛ずるに蛙こわ高な	蟲	動物
10508	昭和3年	秋の部	天と高く地と低しや蟲の聲	蟲	動物
10596	不詳	秋の部	山中の秋意や故人勘破の言	秋意	人事
10598	不詳	秋の部	先たゝず遅れじとすや茸取り	茸	植物
10599	不詳	秋の部	蟲鳴けば蟲聞く人に蛙かな	蟲	動物
10600	不詳	秋の部	雲の峯消えて蟲鳴く野となりぬ	蟲	動物
10601	不詳	秋の部	雲間月あり蟲鳴きやまず	蟲	動物
10607	不詳	秋の部	よそほひや萩を見に出る女づれ	萩	植物